



■ここ1~2年で増えたスマホでする行為(複数回答)

| | | | |
|----------------|-------|---------------------|-------|
| 1位 調べもの | 65.5% | 6位 スマホ決済 | 43.1% |
| 2位 動画視聴 | 64.7% | 6位 オンライン会議 | 43.1% |
| 3位 ショッピング | 58.6% | 8位 写真、動画撮影 | 41.3% |
| 4位 メール、SNSでの連絡 | 48.3% | 9位 天気予報の確認 | 40.5% |
| 5位 ニュースチェック | 46.5% | 10位 オンラインでおしゃべり、習い事 | 36.2% |

「スマートフォンとあなたの関係」アンケート
 ・実施 : 2021年7月 ・調査対象 : 女の欲望ラボ会員200人中116人
 ・調査法 : オンラインアンケート (20代~70代女性)

SF映画の世界のようです。さらにスマホに求める機能とは

こんなに便利なスマホですが、「充電がなくなるとすべての機能が停止してしまう」「重い」「視力が落ちるので」「頼りすぎて脳が衰えるのでは」「個人情報漏洩が心配」と身体的なこと、セキュリティの面などを中心に

不便と不安は絶えません。では、この先もつと進化するとしたら、さらなる機能として人は何を求めるのでしょうか。先述した不安と不便を解消するのは当然のこと、「ソーラー充電」「FB見すぎています、などの警告機能があればいい」「ペットみたいに懐いてほしい」「高度健康管理機能付き」「スクリーンが伸縮可能」「香りが出る」「相手の



日常はコロナの蔓延で一変。急ぎ足でやってきた少し先の未来を、世の中の消費を牽引する女性の視点から解説していきます。現場もがり巡って、新たな気づきを発見するコーナーです。

朝から晩までスマホと一緒に?

スマートフォン(以下、スマホ)が生活に入り込み早10年以上。今や、電車に乗れば、人々の視線はほぼ全員手のひらに注がれています。今回は、いつの間にか必要不可欠な存在になった「スマホと生活者」の蜜月関係に迫ります。本音を聞いたのは、20~70代のスマホ利用者女子116人です。

現在、日本の世帯におけるスマホ保有率は8割を超え、個人においても7割に迫る勢い(総務省・令和2年通信利用動向調査)です。スマホは、あつ

という間に人々の暮らしを変えてしまいました。それをコロナが加速させます。「コロナ前と比べ、スマホを見ている時間は増えた」という人は全体の約66%。「コロナ前と比べて減った」という人は1%もいませんでした。いつ見ているのかといえば、「四六時中」が正解でしょうか。「移動中、電車や車の中などでスマホを見ることが多い」(85.3%)、「朝起きるとすぐスマホをチェックすることが多い」(84.5%)、「夜寝る間際までスマホを見てることが多い」(75.9%)。また「スマホを忘れるとなんだか落ち着かない」(80.2%)という現状には思わず頷いてしまいます。20代は他世代に比べスマホ接触時間が長く、移動中は9割以上が見ていました。頻繁に使っているSNSを聞いてみると、ライン(LINE)は全世代、フェイスブック(FB)は50~60代、ツイッターやインスタグラムは

対して「減ったワクワク」を見ると、リアルや偶然性の喜びを減らしてしまった部分のワクワクがなくなりました。「事前にあたりをつけてしまふので衝動買いが減った」「発見や感動が減った」「いつでも連絡がつくので縛られている」「久しぶりに会うワクワク」「行き当たりばったりの楽しさが減った」「本をゆっくり読む時間」「CDや本など所有するワクワク」「移動中に風景を見なくなった」などなど。未来のスマホには、これら減ったワクワク感を蘇らせるような新機能も期待したいところです。

やまと・たかよ

女の欲望ラボ代表、女性生活アナリスト。専門は、女性の意識行動研究。独自の「メール文通法」により、20代~70代女子、アジア14カ国16都市の垂女子ラボも活動中、SNSを駆使し随時情報収集。
<https://www.onnanorokuboulab.com>

「一番身近な存在」は、依存が自然か

この状態は、「依存」なのでしょうか。116人中、はつきりと「スマホ依存」を認めたのは71人。世代別に見ると、40~50代が高く、低いのは20~30代そして70代でした。子どもの頃からあたりまにスマホがあつた20~30代にとっては、自然な存在で、もはや「依存」という感覚ではないのかもしれませんが。依存申告者からは、「手にスマホが貼り付いている感じ」「家族と接している時間より

長いかも」「スマホとお友達」から抜け出したい!!」「デジタルデトックスしたい!!」など、近づきすぎて少し距離を置きたいという気持ちも芽生えているようです。

「自分にとってスマホはどんな存在か」の問いには、「必要不可欠」「便利なツール」そして「有能な秘書、コンシェルジュ、相棒、私の次に私」など擬人化した意見が多く見られました。「命と同じくらい大事」「身体の一部」という表現が多かったのも驚きです。「支配されているつもりが支配されてしまった」「私以上に私を知っている」という意見は、どこかで見た



気持ちはわかるといい」「完全な自動音声入力と通訳、翻訳機能」「すべてのポイントカードをスマホにまとめた」「エアコン機能」「遺言システム」などなど。少し先の未来でスマホは、さらに「有能な秘書」であり、「ボディガード」であり、時には恋人「のようになるかもしれません」。

増えたワクワク、減ったワクワク

スマホの出現で相当な利便性を手にした半面、失ったものも大きかったのではないのでしょうか。最後は、「ワクワク感」について見てみようと思います。「増えたワクワク」は、「去年の今日、何をしていたかを思い出させてくれる」「同じ趣味の人と簡単に繋がることができる」「知らない世界をすぐに知ることができる」「思い立ったらすぐに友人に連絡ができる」「理想的な犬を世界中から探せる」など、過ぎ去った日々から未来まで、世界を即広げられる積極的なワクワクが多く見られました。

未来へ向けて

スマホが生活の一部になり早10年。依存の認識も高いが、若い世代にとっては物心ついた頃から自然な存在でもある。支配されないように、上手に共存し使いこなせば、世代にかかわらず、手のひらに世界を広げていくことができるだろう。



亜女子ブラリ

「スマホ、みんな持っています。フィリピン人はSNSが大好きです。そう語るのには、現在、日本で働くネリサさん。フィリピン人のやりとりはバイバーかメッセンジャー(MG)で、ラインを使っている人は聞いたことがない。マニラの家族とのやりとりはほぼMG。話題は、今はリクチンや家族の体調など。マニラに住むお姉さんに聞けば「フィリピンはもともとスマホ依存者が多いけど、コロナでスマホ時間はさらに増えたと思う。考えたら、オンラインショッピングや映画も音楽も全部スマホね」とのこと。家族みんなネットフリックスに入っているそう。パソコンを持ってない学生たちはスマホで授業を受けるので、さらに依存度は増しているようだ。